

2025年度 第4回地域協議会・地域医療支援委員会 議事録

【日時】令和8年3月4日（水）13:30～14:30

【場所】四日市羽津医療センター4F 第一会議室

【出席者】鳥井孝宏（当会委員長、四日市医師会常任理事）、柴田英治（当会副委員長、四日市看護医療大学学長）、水野義隆（四日市市北消防署署長）、山路和良（四日市市自治会連合会会長）、内田寛（羽津地区連合自治会会長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会『すずらんの会』代表）

以下 当院職員

山本隆行（院長）、長谷川浩司（副院長）、岩永孝雄（副院長）、中島滋人（統括診療部長）、石井雅昭（附属介護老人保健施設長代理）、後藤信二（事務部長）、牧野真美（看護部長）、森田不二夫（診療放射線技師長）、中島佐知子（地域医療連携室看護師長）東川亜依子（附属訪問看護ステーション副看護師長）、法山志穂（感染管理室副看護師長）、位田弥生（総務企画課長）、荒川真行（総務企画課長補佐）、田中利江（健康管理センター管理係長）、大橋紀彦（附属介護老人保健施設管理係長）、大川奈緒子（当会事務局・総務企画課一般職員）

○開会挨拶＜山本院長＞

本日は、年度末のお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。病院が存続していくためには、経営状態を良くすることが重要です。診療面では、特に救急応需率を高めることが求められます。厳しい現状の中でも、当院は比較的、経営状態を安定化させることができている病院の一つだと思います。これも、地域の皆さまのご協力とご理解を賜り、またスタッフの頑張りがあってこそであり、心から感謝しております。ただ、世の中は目まぐるしく動いておりますので、乗り遅れないようにしなければ、病院の存続も難しいと考えます。特に政府は補助をすると言っておりますが、一律にどの病院も同じように補助するというわけではなく、その病院が将来どのように医療を担っていくかを考えたうえで、それに合わせて補助を行うという厳しい現状があります。もう一点、IT化が進み、情報やコミュニケーションはますます複雑化しており、医療の中にも必ず入ってくると思われまます。これに対して、遅れを取らないように対応していかなければいけません。最後になりますが、当院の健診バスが老朽化しているため、クラウドファンディングへのご協力をお願いしておりました。皆さまのご支援により、目標を上回る形で達成することができました。心より感謝申し上げます。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項

- ・病院の現況報告について（令和7年4月～12月）

＜岩永副院長＞

救急患者受入れ強化の取り組み状況

受入れ台数 令和7年4月～12月 1,427件 前年同月比+99件

昨年に比べて救急車受入れ台数・輪番日応需率は増加しております。

初診患者数と紹介患者数

初診患者 令和7年4月～12月 6,317人 前年同月比+605人

紹介患者 令和7年4月～12月 4,093件 前年同月比▲60件

初診患者数は前年度より増加しております。救急患者受入れによる増加と考えます。残念ながら紹介患者数が減っており、当院としても真摯に受け止め今後より一層頑張っております。

入院患者数

新規入院患者数（月平均） 令和7年4月～12月 406人 前年同月比+14人

1日平均入院患者数 令和7年4月～12月 157.8人 前年同月比+0.7人

目標値は新規入院患者数月平均400人、1日平均入院患者数160人としており、そこに届く結果となっております。この数字だけ見ると病院の経営状況が良いようにみえますが、物価や人件費の高騰があり、必ずしも経営が良くなっているという訳ではありません。

・健康管理センター事業報告（令和7年4月～12月）

院内健診月別件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院内健診実施件数 令和7年4月～12月 22,780件 前年同月比+78件

10月～12月をみていただくと若干11月が減少しておりますが、昨年度より営業日が2日少ないため減少していると考えます。

院外健診月別件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院外健診実施件数 令和7年4月～12月 22,397件 前年同月比▲504件

残念ながら減少しております。10月～12月では昨年度より625名減少しております。理由として考えられることは1事業所あたりの受診者件数が減少している事です。

院内特定保健指導実施件数

4月～12月の指導件数は前年より若干減少し、前年同月比▲35件となっております。

積極的支援に該当する受診者が少なかったため減少しております。

院外特定保健指導実施件数

4月～12月の指導件数は前年より非常に増加し、前年同月比+244件となっております。増加の要因はWEBでの保健指導を開始したため件数が伸びていると考えます。

・附属介護老人保健施設利用状況報告（令和7年4月～令和8年1月）

入所者平均前年比 令和7年4月～令和8年1月 86.8人 前年同月比+1.0人

短期利用者 令和7年4月～令和8年1月 1.1人 前年同月比▲1.1人

入所率 令和7年4月～令和8年1月 87.9% 前年同月比▲0.1%

目標としております90人を下回っている状況です。

在宅復帰率 令和7年4月～令和8年1月 58.5% 前年同月比▲5.8%

目標としている60%を下回っている状況です。

通所利用者平均 令和7年4月～令和8年1月 16.7人 前年同月比+2.4人
目標を20人と設定しておりますが、徐々に増加しております。

・附属訪問看護ステーション利用状況報告（令和7年4月～令和8年1月）

総利用者数 令和7年4月～令和8年1月 821人 前年同月比+85人
昨年度と比較して利用者数は増加し、安定して月80名以上をキープしています。

延べ訪問件数 令和7年4月～令和8年1月 5,488件 前年同月比+469件
昨年度と比較して増加しております。いい傾向であると考えます。

新規紹介元の割合の傾向として、他病院やクリニックからの紹介依頼が増え、約半数となります。介護保険利用者の介護度として要支援1・2の方が多く、介護度が高い方は入所することが多くなり訪問が減少しております。当院の訪問看護ステーションとしては、施設に入所するような介護度が高い方々も、入所の手前で少しの間でもご自宅で過ごしていただくというお手伝いはできると考えています。

(委員長)

訪問看護の件数が増えていますが、営業を頑張った等、何かコツはあるのでしょうか。

(東川副看護師長)

本来であれば営業していくことが理想ですが、実際は訪問に回るだけで精一杯の状況なので営業はできていない状況です。件数増加はスタッフが利用者様に真摯に対応している結果ではないかと考えます。病院または他病院からですが、在宅を目指してらっしゃる方は積極的に訪問看護を紹介していただいておりますので件数が増加していると考えます。

(副委員長)

院外健診が減少していますが、健診車が老朽化していることと関係がありますか。

(岩永副院長)

おそらく関係ないです。他の健診施設もたくさんあり受診者の取り合いになっています。当院は薄利多売はしませんので、きちんとした健診を行ったうえで、それなりの料金をいただいております。質が悪い施設もあると思いますが、そういう施設は料金が安いです。どうしても事業所は料金に目が行くところがありますので、当院がどのように健診事業をアピールしてご理解いただくかが一番の検討課題です。

(副委員長)

大口契約している事業所が抜けると痛いですね。

(岩永副院長)

その通りです。そこが一番心配ですが、健診先で担当者の方にお話させていただくと、安い料金がすべてではないとご理解いただける方が非常に多く、すごくありがたく思います。病院の経営

に大事な部分であり、今後も積極的に進めていこうと考えております。

- ・病院で感染が広がると何がおきるか ～当院の経験から～ <法山感染管理認定看護師>
今年に入り当院で実際に起きた新型コロナウイルスの院内感染事例から医療機関における感染対策の重要性についてお話させていただきます。

2026年に入って2部署で新型コロナウイルス感染が発生しました。1部署では一旦収束し、再発生しており現在継続中です。特徴的だったのは、地域ではインフルエンザは流行していても、新型コロナウイルスの流行はしていない状況にも関わらず、院内では感染が広がったことです。院内感染と聞くと特別な病気を想像されるかもしれませんが、実際には皆様が良くご存じの感染症が中心となります。院内で流行すると特に影響の大きい感染症を挙げると、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルス感染症、RSウイルス感染症がありますが、決して珍しい感染症ではありません。地域で見られる一般的な感染症でも、病院内では状況が大きく変わります。ではなぜ病院では注意が必要なのかをご説明いたします。病院では重症化リスクの高い方、免疫力が低下している方が多く、そして密接なケアが必要だからです。そのようなことから、病院の1例発生は地域での1例とは重みが違います。感染が広がると何が起きるかですが、院内感染が発生すると必要な治療が遅れ、面会ができなくなります。病棟閉鎖等により医療提供が制限されます。つまり、影響は患者さんだけではなく、地域医療全体に及びます。地域で感染が少なくなっても病院では引き続き対策が必要です。特にお願いしたいのは、病院内でのマスク着用です。一般的にマスク着用は義務ではなく個人の判断に委ねられていますが、院内ではマスク着用の徹底をお願いしております。そして面会に来られる際は、ご自身の体調管理をしっかりといただき、咳が出るなど体調が悪いと感じる時には、面会時期を延期していただいております。これは決まり事ではなく、患者さんの安心と安全を守るための大切な対策になりますのでご理解いただきたいと思っております。

- ・防災防火訓練の報告について <位田総務企画課長>
今まで防災訓練を行って行っておりましたが、新型コロナウイルスが広がってから一旦中断しており、その後も開催できておりませんでした。2月に開催することができましたのでご報告させていただきます。まず、当院の災害時の役割がどういう位置付けになっているかですが、三重県より災害医療支援病院の指定を受けています。どういう役割かと言いますと、四日市市内には災害基幹病院が県立総合医療センター、災害拠点病院が市立四日市病院となっており、そちらへの患者集中を防ぐため、軽度・中等度症の患者さんの受け入れをする事、災害拠点病院、基幹病院が被災して使用できなくなった場合、代替拠点となる事、災害拠点病院等への医師やスタッフの派遣を行う事が役割となっております。この間の四日市市内の大雨時に、市立四日市病院が水に浸かってしまったという事がありますので、代替拠点となる可能性もあると思っております。先日行いました2月14日の訓練概要ですが、午前中を使い訓練を行いました。想定としては震度7の地震発生で災害訓練は昼間でスタッフが多くの状態での地震発生、火災訓練は夜間を想定して訓練を行いました。内容として、災害対策本部の設置訓練、トリアージエリアの設置訓練、火災発生から初期消火、避難誘導までの訓練を行っております。流れとして、まず地震が発災し、各自で身の安全を確保した後に関係者の参集を始めます。各部門から1次報告として、身の回りを確認

して目視できる範囲で、現在、自身の部署がどのような状態になっているか災害本部に報告します。次に管理者による災害レベルを決定して、災害対策本部の設置を決定します。次に2次報告として各部署詳しく職員のケガの状況、建物の状況、通信使用状況を再度報告します。その報告をもとに診療継続の可否決定を行い、診療継続可能であればトリアージポスト設置の指示の流れで行います。放送をどのタイミングで流すか、物品はどういう風に準備するかなどの具体的な動きをアクションカードに落とし込んでおり、その通りに動けるかを確認しました。火災訓練については、まず火災探知機が発報したら、近くにいる職員が防災センターに急行し火災発生エリアの確認を行い現場に向かいます。周りの職員にも協力してもらい火元の搜索・発見を行い、患者さんの避難誘導を行います。その後、消火器・消火栓で初期消火を試みて、それと同時に別の職員が各病室の逃げ遅れ患者さんがいないか確認しながら防火扉をつたって火災エリアを封鎖し、安全区画へ患者さんを急いで避難させるという流れの訓練を行いました。訓練後、各部署から反省点や良かったことの意見を踏まえてマニュアルの改訂やアクションカードの見直しをしていくこととなります。今回はトリアージポスト設置までの訓練しかできておりませんので、あとは実際のトリアージの流れやトイレ等の対策、受援の対応をどのようにしたらよいか、安否確認システムを有効的に利用できないか等、様々な検討事項があります。地域の防災訓練にも積極的に参加させていただき、行政等とも協力しながら進めていければと思います。

(自治会)

参加人数は全体で何名ぐらいですか。

(位田総務企画課長)

約80名です。

(自治会)

良かった点、考え直す問題点を教えてください。

(位田総務企画課長)

問題点はたくさんあり、患者さんの逃げ遅れ確認を行う際に職員が同時方向に動いているので拡散して動いた方が短時間で出来るのではないかと、トリアージポストを何も考えず設置するのではなく入口の動線や雨・雪が降っている場合も想定して考えながら行った方がいいのではないかという事です。トリアージポストを設置する手順は、専門の職員しか分かっていない部分がありますので、情報を共有した方が良好等の問題点がでております。事前に説明会も開催し職員に周知を行っておりますが、想定していたよりも職員が動いていたところが良かった点です。

(自治会)

これは失敗だったという点がありますか。

(位田総務企画課長)

そこまで失敗だったという事はございませんが、久しぶりの訓練だったので手探りのところもありました。

(行政)

行政と連携できるところまで持っていったら良いと思います。防火のところですが、消防の立場として言いますと、病院や福祉施設において夜間時は職員が手薄なので、いかに安全に患者さんを避難させるかというところがあります。今後、消防も一緒に訓練に参加させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(自治会)

羽津地区の防災訓練ありがとうございました。三重の防災大賞で特別賞をいただき、その時に評価された内容が、病院・行政と連携して行ったことです。令和8年度も計画をしており、福祉部門をもう少し強化しようとしております。在宅で寝たきりの方をどうやって助けるか等の課題があり、まだ地域の中で課題に踏み込めていないので、これから取り組めるようにしたいと考えております。

(委員長)

医師会でも救護所設置訓練を行っておりますが、問題となったのはトリアージ黒タグをどうするかです。安置所をしっかりと設置しないと、助ける方ばかり意識しており黒タグをどうするか誰も考えていない状況です。

今回の訓練は昼間の地震ですが、夜間の場合、職員との連絡はどのような対応ですか。

(位田総務企画課長)

安否確認システムを導入しているので、個々のスマホで病院に駆け付けられる状態にあるかどうかというのを返信できるようにしております。

・地域の皆さまへの感謝とご報告 ～巡回健診車更新プロジェクトの成果とこれから～

<森田診療放射線技師長>

プロジェクトの概要、地域の応援と連携、成果と意義、今後の展望についてお話をさせていただきます。これは単なる活動報告ではございません。地域の力を実感した物語のご報告でございます。本プロジェクトは地域と企業のために働く三重を支える巡回健診車更新プロジェクトとして実施いたしました。巡回健診車は導入から24年、約40万キロ走行して老朽化が進んでおり、修理部品が入手困難となり、メーカー保守のサポートも終了しているので非常に困った状況でした。しかし巡回健診車は地域企業で働く方々の健康を守る重要な役割を担っております。そこで安心安全な地域医療を持続させるために更新を決断いたしました。目標寄付金額1,200万円として挑戦しました。この挑戦は決して一人ではできませんでした。色々な方に支えていただき、プロジェクトメンバー、他のスタッフにも協力していただきながら職員が一丸となって、皆様の健康を守りたいとの思いを共有しながら取り組みました。そしてなにより地域の皆さまの存在が支えでありました。プロジェクト期間中、多くの場でご紹介の機会をいただきました。昨年末は四日市市のとこわか健活フェスタ、前回の地域協議会・地域医療支援委員会、羽津地区防災訓練でご紹介させていただきました。Yahoo ニュースや中日新聞にも取り上げていただきました。また、ケーブルテレビ放映後の反響も大きかったです。では実際どれだけ寄付が集まったかご報告させていただきます。目標金額1,200万円であり、支援総額の結果が約1,300万円で目標を達

成しました。達成率は108%となりました。本当に皆様のご支援ありがとうございました。支援者数は企業含め474名です。この数字は単なる金額ではなく、皆様が地域を思う心の結晶だと感じております。数字以上に嬉しかったことは「頑張ってください」・「地域の健康を守ってくれてありがとう」等のコメントをいただいた事です。私たちの背中を押してくださり頑張る事ができました。目標達成率の推移ですが、ずっと目標を下回る状況でした。徳山代表にSNSで拡散していただいた後から達成率が上がってきましたが、2週間前になっても目標に届かないような状況でした。スタッフも無理なんじゃないかと思っている中、直前で目標達成することができました。このプロジェクトの意義ですが、単なる車両の更新ではなく、地域医療の持続可能性の確保への挑戦であったと思います。あと働く世代の健康支援強化の取り組みであり、医療と地域の新しい協働モデルの第一歩だと考えます。病院が地域を支えるのではなく、地域と病院が共に支える形ができたのではないかと考えております。新しい健診車は2026年4月に走り出します。今後さらに企業健診を充実させて予防医療のさらなる推進、次世代への健康教育にも取り組んでまいりたいと思います。皆様のご支援を結果でお返しする事が私達の使命だと考えております。健診を含む地域医療は医療機関だけでは成り立ちません。企業・支援団体・行政・医療従事者・地域の皆さまの存在があってこそです。この健診車は地域の想いを乗せて走ってまいります。今後とも、地域の健康を共に守らせてください。心より深く感謝申し上げます。

(副委員長)

次に古い健診車はあるのですか。

(森田診療放射線技師長)

まだ延命できるであろう健診車は、現在レストアしております。新車を購入しようとする金額が掛かりますので、車体はそのままレストアしております。全国的に院外健診バスが減っていて院内健診にシフト変更しています。質の落とさない健診車を作りながら需要に応じた健診車を維持していくことが大事と考えます。

2. その他

なし

3. 意見交換

(看護部長)

出前講座のご依頼をいただいております。担当者を割り振ってプランを立てたもののご案内です。講義だけではおもしろくないので30分程お話しして、あとは地域の皆さまと意見交換込みで1時間程度の内容となります。

もう1点ですが、3月15日に第3回目のジュニアメディカルラリーを開催します。高校生が40名程参加してチームを組み、色々な現場で患者さんを助けるという事を行います。ご都合がよろしければご見学ください。

(患者代表)

四日市市が乳がん患者の装具に2万円ほど補助してくれる案がでているので、どういう物が必要かという問い合わせがあり、案が正式に決定した後は、病院だと地域連携室の相談窓口に行ってくださいという事になりますか。

(牧野看護部長)

乳がん患者様限定ですか。

(患者代表)

ウィッグや胸の補正用具とかですが、それが地域連携室でなければならぬと言われると患者さんが行きづらく、お世話してくれる看護師さんが大体の事を分かっていて、詳しいことは地域連携室でという対応であれば病院に行きやすいですが。

(牧野看護部長)

ご案内する用紙がありましたら、私から外来や地域連携室に説明をして患者様への対応いたしますので、また教えていただければと思います。

(自治会)

9月に防災訓練を予定しております。日程調整を行いますのでまたよろしくお願ひします。

(行政)

救急の受け入れを本当にありがとうございます。四日市消防管内全体の10%を超える状況です。救命士からスタッフの皆さまが疲れていないか心配の声が上がるほどです。本当にありがたく、感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

4. 閉会挨拶<長谷川副院長>

本日はご多忙の中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。非常に貴重なご意見をいただき、さらに心温まるお言葉をいただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。

次回開催は改めて日程調整を行います。